

## 5 健やかな「都」をつくる

### 【基本的方向】

健康寿命日本一を目標に、高齢者、障害者を含む、誰もが健やかに暮らせる地域をつくる。

### 【数値目標】

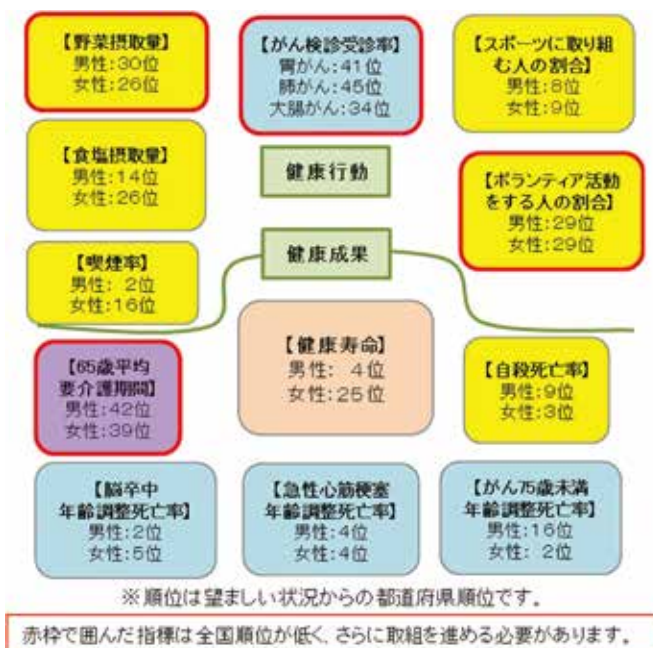
- (1) 65歳時健康寿命 男性：18.49年・全国4位（平成30年）、女性21.05年・25位（平成30年）→さらに伸ばす・全国1位（令和4年）
- (2) 急病時に診てもらえる医療機関があること（県民アンケート調査満足度(5段階評価)）3.00ポイント（令和元年度）→毎年度向上
- (3) 市町村地域福祉計画策定率 43.6%（令和元年度）→74.0%（令和3年度）
- (4) 1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人の割合 48.4%（平成30年度）→50.0%（令和4年度）

### 【具体的施策】

- (15) 健康寿命日本一を目指した健康づくり

#### ①健康増進施策の推進

「健康寿命日本一」の目標達成を目指し、健康、医療、介護、福祉分野の取組を推進します。



百歳体操



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
喫煙率	11.9%（平成30年度）	9.9%（令和4年度）
食塩摂取量	男性 10.6g（平成28年） 女性 9.2g（平成28年）	8g（令和4年）
野菜摂取量	男性 279g（平成28年） 女性 263g（平成28年）	350g（令和4年）
1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施している人の割合	48.4%（平成30年度）	50.0%（令和4年度）
80歳で20歯以上ある(8020)人の割合	46.4%（平成30年度）	55.0%（令和4年度）
自殺死亡率	14.1%（平成29年）	11.4%以下（令和4年）
がん検診受診率	胃がん 36.2%（平成28年） 大腸がん 39.0%（平成28年） 肺がん 38.5%（平成28年） 乳がん 40.9%（平成28年） 子宮がん 38.3%（平成28年）	各がん 50%以上（令和4年）

## <具体的な取組>

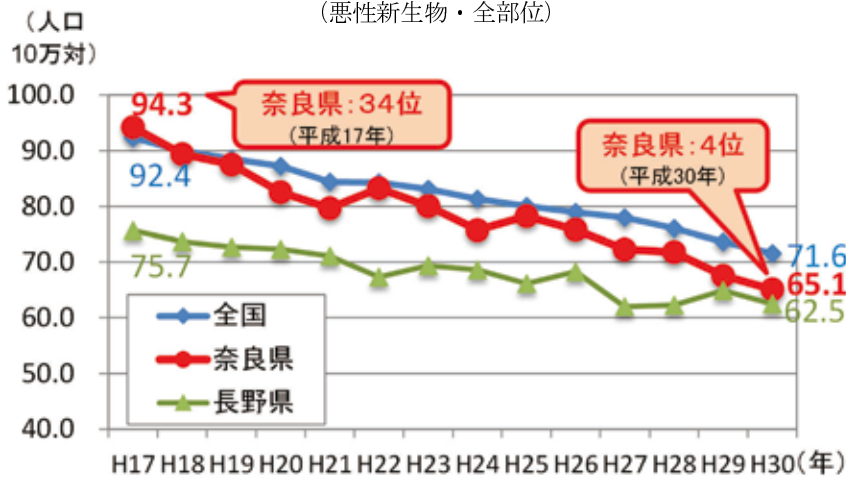
- 減塩・野菜摂取の推進
- 身体活動・運動の推進
- がん検診受診率の向上
- たばこ対策の推進
- 自殺対策の推進
- 平均要介護期間の短縮
- 糖尿病性腎症重症化予防対策の推進

## 【具体的施策】

### ②がん対策の推進

「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」の実現に向け、がん医療情報の収集分析、がん医療のさらなる高度化・充実、がん検診受診率の向上等に取り組み、がん死亡率が全国一低い県を目指します。

75歳未満年齢調整死亡率の推移  
(悪性新生物・全部位)



「がん検診を受けよう！」  
奈良県民会議 街頭啓発



奈良県の死亡率の減少率  
30.9%(全国1位)  
＜参考＞全 国 : 22.5%  
長野県 : 17.4%

<KPI>

指標名	現状値	目標値
がんの75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)	65.1 (平成30年)	52.8 (令和9年)
がん5年相対生存率	60.2% (平成23年)	増加 (令和9年)
がん検診受診率 (再掲)	胃がん 36.2% (平成28年) 大腸がん 39.0% (平成28年) 肺がん 38.5% (平成28年) 乳がん 40.9% (平成28年) 子宮がん 38.3% (平成28年)	各がん50.0%以上 (令和4年)

<具体的な取組>

- がん検診受診率の向上
- がん予防・がんの早期発見の推進
- がん医療体制の整備、緩和ケアの充実及び地域連携の推進
- がん患者等への支援の充実
- がん登録及びがん診療情報の見える化の推進
- がん教育・普及啓発の推進

健やかな「都」

## 【具体的施策】

### ③高齢者の安全安心なくらし

高齢者が健康で生きがいを持って活躍できるとともに、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、社会参加を通じた生きがいづくりに取り組みます。さらに、高齢者を取り巻く日常生活の諸課題に地域で取り組み、高齢者がともに支え合って活躍できる地域づくりをより一層推進します。

元気シニア向け介護の入門研修受講者



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
奈良県総人口に占める認知症サポーターの人数	102,177人（令和元年6月30日）	139,800人（令和6年度）
奈良県立大学におけるシニアカレッジの参加者数	1,016人（平成30年度）	1,000人以上の維持（令和6年度）
1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施している人の割合（再掲）	48.4%（平成30年度）	50.0%（令和4年度）
介護関係職種の有効求人倍率	5.02倍（令和元年6月） （全国平均4.08倍）	全国平均並み（令和6年度）

## <具体的な取組>

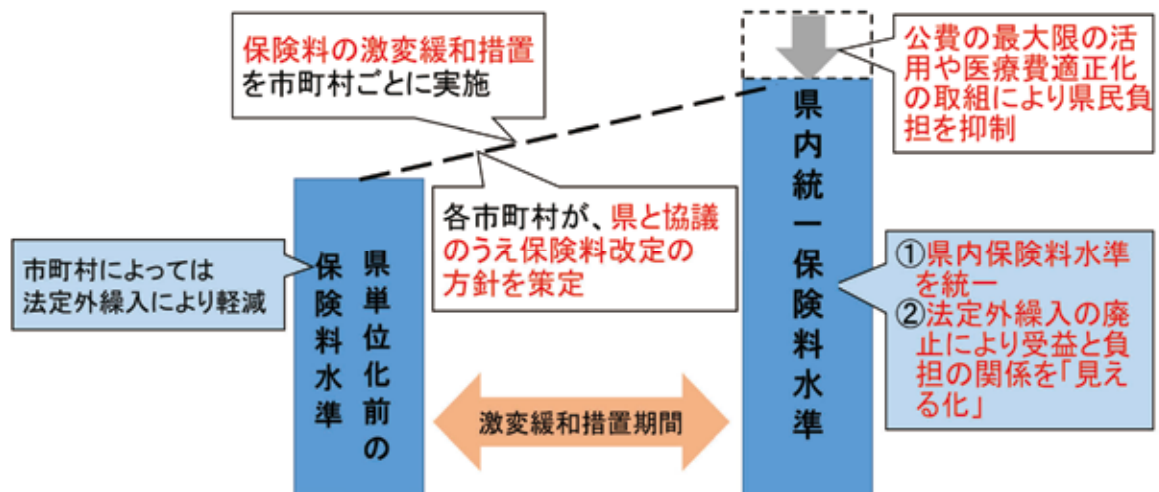
- 「通いの場」の普及・拡大による介護予防の取組の推進
- イベント開催などを通じた高齢者の社会参加の促進
- 認知症サポーター養成のための研修の充実
- 意欲のあるシニアの方々にニーズの高い介護分野での活躍を支援
- 「奈良県福祉・介護事業所認証制度」の運用による事業所における働きやすい職場づくりの取組を推進

## 【具体的施策】

### (16) 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実

#### ①国保の県単位化の円滑な推進

国民健康保険（国保）の制度は、平成 30 年 4 月から「市町村ごとの運営」から「県域での運営」に変わりました。国保運営の安定化と加入者負担の公平化、医療費の適正化、医療提供体制の整備を三位一体で推進し、「同じ所得・世帯構成であれば、県内のどこに住んでも保険料が同じ」になることを目指します。



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
奈良県の国民健康保険の医療費総額	1,151 億円（平成 29 年度）	1,177 億円を超えない（令和 6 年度）
各市町村の国保特会の累積赤字額	733 百万円（平成 30 年度）	累積赤字の解消（令和 6 年度）

### <具体的な取組>

- 県と協議のうえ各市町村が策定した保険料改定方針の確実な実行
- 県・市町村が共同で策定する保険料収納対策マニュアル等の実行による収納対策の充実・強化
- 県・市町村・国保連合会・国保事務支援センター等の連携による効果的・効率的な医療費適正化の取組
- 地域医療構想に基づく病院機能の分化・連携、医療提供体制の均てん化等の取組を推進

## 【具体的施策】

### ②地域医療構想の推進

将来の医療需要に対応した持続可能で効率的な医療提供体制の構築を目指します。県が主体的に関係者と協議を進め、全国のモデルとなる地域医療構想を実現します。



奈良に必要なのは

「断らない病院」

と



「面倒見のいい病院」

### <KPI>

指標名	現状値	目標値
急病時に診てもらえる医療機関があること（県民アンケート調査満足度(5段階評価)）	3.00 ポイント（令和元年度）	毎年度向上
入退院支援加算届出病院数	40 病院（平成 30 年 12 月 1 日）	毎年度増加
医師確保修学資金制度による配置医師数	29 人（平成 30 年度）	100 人（令和 6 年度）

### <具体的な取組>

- 「断らない病院」「面倒見のいい病院」の機能強化・連携推進
- 医療・介護サービスの需要に対応できる地域医療提供体制構築の推進
- 地域医療構想に即した医師の適正な配置

## 【具体的施策】

### ③医療費適正化

県民の医療費負担を抑え、誰もが安心して医療が受けられる国民皆保険制度を維持するために、第3期医療費適正化計画では、医療費推計を「目標」として設定し、その達成を目指して医療費適正化に取り組みます。医療費適正化の取組は、医療費の地域差(市町村差)、疾病別、前年度との増減比較の3つのアプローチにより要因を分析し、その結果に基づいて効果的に進めます。

### <KPI>

指標名	現状値	目標値
後発医薬品の使用割合	全国 37 位 (平成 30 年度・調剤のみ)	全国 1 位の水準 (令和 5 年度)
15 種類以上の薬剤を投与されている患者 (国保・後期高齢者医療) の割合	6.3% (平成 29 年度)	7.0% (平成 27 年度数値) より半減 (令和 5 年度)
糖尿病性腎症による新規人工透析導入患者数	215 人 (平成 30 年度)	年間 197 人 (平成 26~28 年度の平均) より減少 (令和 5 年度)
特定健康診査の実施率 (市町村国保)	31.6% (平成 29 年度)	70%以上 (令和 5 年度)
特定保健指導の実施率 (市町村国保)	15.8% (平成 29 年度)	45%以上 (令和 5 年度)

### <具体的な取組>

- 医療費分析による地域の課題や医療提供状況の「見える化」
- 「医薬品適正使用促進地域協議会」による地域の実情に応じた医薬品適正使用の取組
- 医療関係者、県民の双方に向けた後発医薬品使用促進の取組
- 奈良県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づく受診勧奨などの取組
- 糖尿病診療体制の強化
- 特定健康診査・特定保健指導の未受診者への受診勧奨

## 【具体的施策】

### ④地域包括ケア・在宅医療の充実

重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるには、医療・介護・予防・住まい・生活支援が、地域で一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が必要であり、地域包括ケア、在宅医療、看取りを充実します。



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
居宅で介護サービスを受ける高齢者の割合	82.0%（平成30年度）	84.0%（令和6年度）
奈良県総人口に占める認知症サポーターの人数（再掲）	102,177人（令和元年6月30日）	139,800人（令和6年度）
訪問診療を実施する診療所・病院数	385施設（平成27年度）	504施設（令和5年度）
在宅（自宅・老人ホーム）で亡くなる人の割合	24.8%・全国6位（平成30年）	毎年度増加

### <具体的な取組>

- 地域包括ケアの構築に取り組む市町村等への支援
- 県・南和広域医療企業団・市町村の連携による南和地域における在宅医療・介護連携の取組
- ルールの異なる地域間で円滑な退院調整を行うための広域調整会議の開催等
- 地域医療介護総合確保基金を活用した地域密着型介護サービス等の整備促進
- 医療・介護職等による多職種連携の取組への支援
- 認知症サポーターの養成のための研修の充実
- 訪問看護事業所を充実させるための訪問看護に携わる人材の確保や定着支援
- 在宅医療を担う医師の確保のために講習会や研修会を実施し新規参入を促進



- 県民や医療・介護従事者に対する在宅医療、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及啓発
- 令和3年度からスタートする次期「奈良県高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業支援計画」を策定

## 【具体的施策】

### ⑤医療提供体制の充実

県立医科大学については、教育・研究部門を近隣の旧農業研究開発センター跡地に移転新設します。また、新外来棟等附属病院の整備の検討を進めます。

施設の老朽化が進む西和医療センターについては、高齢化や人口減少が進む中、将来に向けた西和医療センターの機能や運営のあり方、再整備について検討します。

平成28年4月に開院した  
南奈良総合医療センター



平成30年5月1日に移転した  
奈良総合医療センター



新キャンパスのイメージ



新外来棟等附属病院のイメージ  
(南側に新外来棟が設置された場合)



## 西和医療センター



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
医大新キャンパス先行整備分の完成	文化財発掘調査実施中（～令和3年度）	令和6年度中の先行整備分の完成
西和医療センターのあり方検討委員会の開催回数	2回（令和元年度に立ち上げのため、3回開催予定）	毎年度5回程度開催
西和医療センター基本構想の策定	－	令和4年度までに策定
西和医療センター基本計画の策定	－	令和5年度までに策定

### <具体的な取組>

- 医大新キャンパス造成工事、建築工事の実施
- 医大新キャンパス継続整備の整備方針検討
- 新外来棟等附属病院整備計画の検討
- 西和地域の主な疾患の現状と将来推計需要の調査分析
- 西和地域の医療提供体制の需給の調査分析
- 西和医療センターの将来担うべき医療機能、施設についての検討

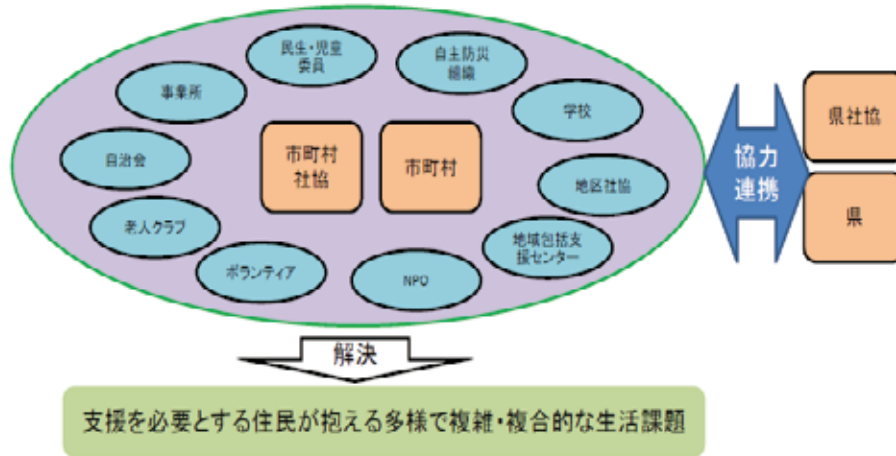
## 【具体的施策】

### (17) 福祉の充実

#### ①福祉の奈良モデル構築

地域の生活課題の解決に向けた体制づくりを行います。県及び県社会福祉協議会との連携のもと、市町村及び市町村社会福祉協議会が中心となってモデル的取組を実践します。地域特性を考慮しながら、優良先進事例を他の地域へ拡大する「奈良モデル」の手法で、県域での充実を図ります。

福祉の奈良モデル構築



#### <KPI>

指標名	現状値	目標値
コミュニティソーシャルワーカー配置市町村数	6 市町村（令和元年度）	12 市町村（令和3年度）
市町村地域福祉計画策定率	43.6%（令和元年度）	74.0%（令和3年度）

#### <具体的な取組>

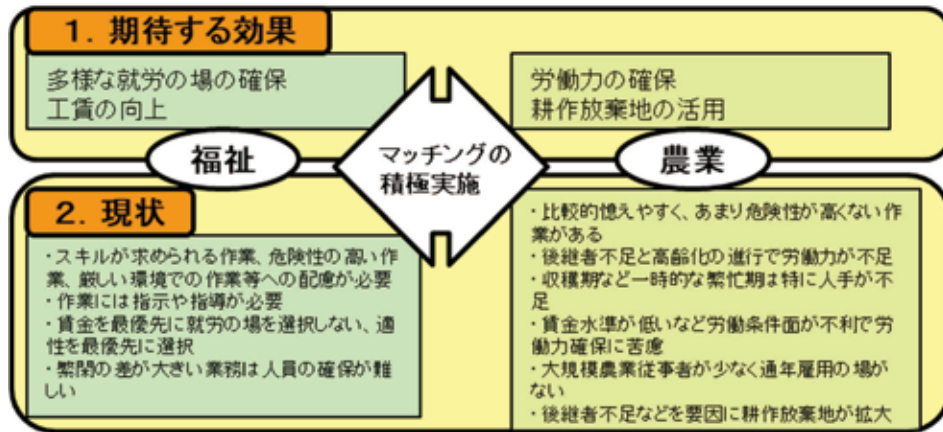
- コミュニティソーシャルワーカー実践研修の実施
- コミュニティソーシャルワーカーの活動支援
- 市町村地域福祉計画策定支援プログラムの実施

## 【具体的施策】

### ②農福連携の推進

農業従事者の障害者に対する理解と協力を広げ、障害者が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参加を実現していく「農福連携」の取組を拡大していきます。

農福連携推進



### <KPI>

指標名	現状値	目標値
農福連携による生産活動に係る収入（就労継続支援A型・B型事業所）	34,853 千円（平成 30 年度）	58,000 千円（令和 6 年度）

### <具体的な取組>

- 農業技術の取得や農業分野に精通した人材の確保に対する支援
- 農業分野における障害者への理解促進
- 農地、農業施設など生産基盤の整備に対する支援

## 【具体的施策】

### ③重症心身障害児(者)支援センターの設置

関係団体等へのニーズ調査結果や福祉、医療、教育等関係機関との議論を踏まえ、重症心身障害児(者)支援センターの設置を進めます。



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
医療的ケア児等コーディネーター養成研修の修了者数	0名（平成30年度）	110名（令和6年度）
医療的ケア児等を支援する相談支援専門員を配置している事業所数	0事業所（平成30年度）	50事業所（令和6年度）

## <具体的な取組>

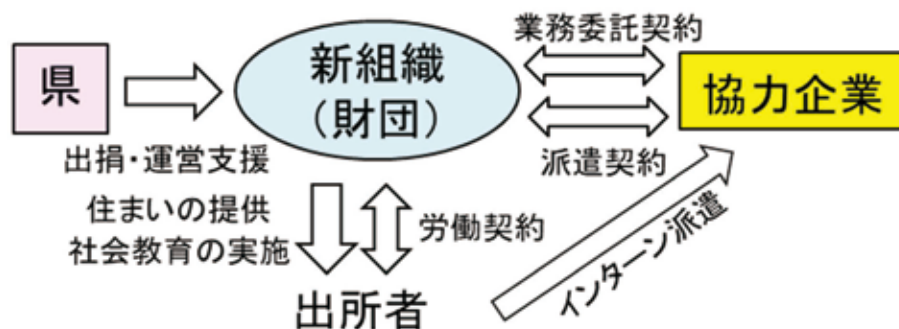
- 重症心身障害児（者）支援センターの設置・運営
- 医療的ケア児等の在宅生活を支援する人材の育成
- 医療的ケア児等支援の方向性を検討する「協議の場」の設置

## 【具体的施策】

### ④出所者の更生保護、就労支援

出所者が、社会人として自立するためには、出所後、就業できる場所と定住できる場所が確保されることが重要です。

出所者の就労の場づくりを進めるとともに、更生支援を推進するための条例を制定します。



## <KPI>

指標名	現状値	目標値
保護観察対象者の新規雇用人数	44 人（平成 30 年度）	45 人以上（令和 6 年度）
初めて保護観察対象者を雇用した協力雇用主数	6 社（平成 30 年度）	6 社（令和 6 年度）

## <具体的な取組>

- 出所者の就労の場づくりの推進
- 出所者の更生支援を推進するための条例を制定
- 協力雇用主向けセミナー、再犯防止に向けたシンポジウム等の実施
- 就労に必要な資格取得の支援

## 【具体的施策】

(18) だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

### ①スポーツの振興

市町村、企業等との連携を密にして、だれもが、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境づくりを積極的かつ計画的に進めていきます。国民体育大会の2巡目開催や、その先の将来を見据えたスポーツ施設のあり方を検討し、県全域におけるスポーツ拠点施設の中長期的な整備に関するビジョンを策定・推進します。

また、スイムピア奈良（県営プール）の施設充実、まほろば健康パークの機能充実の検討を進めます。歩道や川辺、公園など、身近なオープンスペース、公共施設や民間施設を活用、整備することによる、まちなかにおける運動・スポーツ環境の整備を意欲のある市町村と協働して行います。



まほろば健康パーク 観客席増設及び屋根設置完成イメージ図



健康遊具を使いストレッチ



まほろば健康パークでウォーキング



健やかな「都」

<KPI>

指標名	現状値	目標値
1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人の割合（再掲）	48.4%（平成30年度）	50.0%（令和4年度）
1日の総運動時間が60分以上の割合（小学5年生）	38.2%（平成30年度）	55.0%（令和4年度）
1日の総運動時間が60分以上の割合（中学2年生）	72.6%（平成30年度）	75.0%（令和4年度）
スポーツイベント参加者数（総合型交流大会）	7,100人（平成30年度）	10,000人（令和4年度）
まほろば健康パーク年間利用者数	325,123人（平成30年度）	350,000人（令和6年度）

## ＜具体的な取組＞

- だれもがスポーツに親しめる地域スポーツの推進
- 子どもを健やかに育むスポーツの推進
- 県民に夢と感動を与える競技スポーツの推進
- スポーツ施設の整備・活用
- スポーツによる地域のにぎわいづくりの推進
- スポーツによる国際交流の促進
- 「スイムピア奈良」50m屋外プールの観客席増設及び屋根の整備
- 隣接地を利用した、まほろば健康パークの機能強化